

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0892000019		
法人名	株式会社 いっしん		
事業所名	グループホームいっしん館つくば 1階		
所在地	茨城県つくば市上原23		
自己評価作成日	平成22年7月1日	評価結果市町村受理日	平成22年12月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ibaraki-kouhyou.as.wakwak.ne.jp/kouhyou/infomationPublic.do?JCD=0892000019&amp;SCD=320">http://ibaraki-kouhyou.as.wakwak.ne.jp/kouhyou/infomationPublic.do?JCD=0892000019&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2
訪問調査日	平成22年8月14日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

定期的にレクリエーションを企画し実行している。日常的に家事のお手伝い等をして頂いたり、気分転換ができるように配慮している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園と住宅に囲まれホームの周囲の散歩では、自然が楽しめ車を使ったドライブなどでは、数分で大きな公園に行けたり、外食などもその日の都合や入居者の希望により変化のある外食が楽しめる。いっしん館つくばでは、特に外出や馴染みの関係に着目した取り組みが行われている。職員教育にも力をいれ、グループ全体での高齢者ケアの啓発が行われている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営規定・基本理念・決め事十則を掲げ、新人職員には基本マニュアルを用いて理念の周知を徹底している。	グループ全体の理念、ホーム独自の理念を掲げ朝礼などを利用し職員全体で唱和したり、管理者が個々の職員に直接伝えるなどし、統一されたケアの提供に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩の時などに積極的に挨拶をしたり、館内での行事の参加のお誘いをしたりしている。	地域の風習が根強く残り、地域に馴染む事業所の存在に苦労されている。しかし管理者をはじめ、職員や入居者家族の協力によりその成果が少しずつ変化している。今後も地域への啓発や理解を深めるため活動を継続していただきたい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議を活用しながら、地域の方々に理解して頂けるように実践している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議を実施し、参加者同士で意見交換を行いサービス向上に活かしている。	3か月に1度行政からの指導により定期的に行われている。会議の内容は議事録に残され閲覧可能になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者に地域運営推進会議に参加して頂き、施設の状態を伝えたり意見を求めたりしている。	管理者は、行政へ直接足を運び近況の報告や利用者の相談などを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は日中は施錠していない。また、身体拘束をしない取り組みを全職員で取り組んでいる。	拘束についてのマニュアルを作成し、拘束についての理解を共有し、また施設内にて学習会を行うなどし、拘束についての理解を施設全体で深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様を敬う気持ちを持ちながら、業務を行うよう指導している。また、虐待が見過ごされないように職員間での情報の共有を密に行っている。		

茨城県 グループホームいっしん館つくば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	つくば市地域連絡会の研修に参加することにより、学ぶ機会を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際には利用者様・ご家族様に十分説明を行い理解・同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や苦情は随時受付し、またアンケート・意見箱を設置しご意見・ご要望を頂けるようになっている。頂いたご意見は、その都度納得のいくまで説明対応させて頂いている。	面会やつくば便りなどを利用し、家族や利用者の要望を聞き入れるようにしている。ケアプランなどを郵送した際に、家族の要望が聴取できるよう書式を工夫するなどし、家族の意見を積極的に気される工夫がある。	家族への報告を詳細にし、月単位の行事や外出先など具体的な起債が今後期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の職員ミーティングをはじめ、普段の業務の中でも職員同士で意見交換を積極的に行いサービスの向上に活かしている。	職員ミーティングを利用し、職員の意見を積極的に聞き入れ業務や運営に反映させている。また職員からのヒアリングからも職員の意見を聞く体勢があると聞かれた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員ミーティングや男性職員ミーティングにて、職員同士の交流を図ったり、悩みを話合ったりしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を活発に行い、DVD等も活用しつつでも学習できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	つくば市地域密着型サービス連絡会議に参加し、より良いサービスの質向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	1対1で話せる環境を作り、要望・不安等を傾聴している。また、気付きシートやアセスメント様式を用いて現状把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご希望に応じて体験入居を行い、要望や不安等について事前に十分に話し合いを行えるように工夫している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	身体状況を見極めて、医療行為が継続して必要な場合は優先している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯物たたみ等を手伝って頂きながら、昔の思い出話や経験を教えて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月写真付きのお便りを郵送し利用者様の状況報告を行っている。また、行事やレクリエーションに参加して頂けるようにお誘いの連絡を取っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話等を用いて、馴染みの関係が継続できるように支援している。	入居者の古い友人や馴染みの医師や理髪店などへの送迎など、入居者の生活史を理解し、利用者ならではの馴染みの関係の継続に配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立する利用者様がいないように、普段の会話やコミュニケーションの中で利用者様同士の橋渡しを行っている。また、レクリエーションを通じて利用者様の交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当事業所はグループホームの他にも関連施設があり、そちらに転居できる仕組みになっているので、利用者様・ご家族様と連絡を取り、支援させて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の要望を傾聴する環境を作り、アセスメント等を活用しながら本人の意向を把握できるように努めている。また、意思疎通困難な方に対しては、ご家族からの要望を聞き利用者様の意向に沿えるよう工夫している。	利用者の希望は、その都度聴取され健康状態や清潔面などで職員が把握したうえで、利用者へのアプローチが行われている。食事の内容や、入浴などの、その日その日の対応が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の生活歴を把握し、個々が得意とすること・好み等を見極めて日常生活の中に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録、申し送り帳、日誌、朝礼を活かして心身状態・現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様・ご家族様の意見を取り入れながら、より良い生活が送れるように介護計画書を作成している。状態に変化があった場合には、職員間で意見交換し現状に沿うよう介護計画書に活かしている。	ケアプランは、個別に作成されており、職員の意見や入居者の日々の変化やかかわりが記載されている。	家族や利用者の要望や意見が、書式等により聴取され、その内容が今後ケアプランに反映され、さらなるケアプランの充実が期待される。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録・申し送り帳・日誌を活用し利用者様の様子やケアについて記録として残している。その内容を全職員が把握して介護計画書作成にも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様・ご家族様の希望に添えるような対応・支援を心掛けている。また、当事業所はグループホーム以外の関連施設もあるので、利用者様の身体状況に即した対応が可能である。		

茨城県 グループホームいっしん館つくば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な消防訓練を地域の消防署に指導して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診の協力体制が整っている。受診、通院等は、利用者様やご家族様の希望に応じて対応している。また、年に1度健康診断を実施している。	施設で連携している医師との連絡は24時間可能であり、入居者の希望する医師への送迎も有料で行われている。また往診の医師は、内科 外科 精神科と各科の専門医が往診にくる仕組みとなっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診・受診に加え、月2回訪問看護がありその都度気軽に相談できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的に面会に行き、相談員と連絡を取ったり担当医師から病状説明を受けたりし、早期退院に向けて連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについては、入居時にご説明をしている。その後も利用者様・ご家族様の意向を聞いたり医師と連携を図りながら最善の方法を取れるようにしている。	看取りケアについては、入居時に家族に説明し、医療、施設、家族、本人と十分な話し合いを持って提供するよう配慮されている。今後は、同意書などの整備も考慮されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習を受けている。AEDも設置により、講習会も開催しました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、定期的に消防避難訓練を行っている。非常災害用品を備えている。	消防署指導のもと避難訓練を行い、自主的な訓練も定期的に行われている。また管理者は元公的災害避難所なども把握され避難ルートなども確保されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴染みのある言葉で会話する等、利用者様一人一人に合わせた言葉使いや声かけを行っている。	利用者の自尊心に配慮した言葉かけで、ケアが提供されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の意見を尊重し利用者様本人に決定権を委ねるよう、普段から傾聴会話の機会を多く作っている。意思疎通困難な方には、職員が助言しながら決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の暮らしを時間で区切らず、個々の生活のリズムに合わせたケアを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	当事業所の訪問美容室を希望に応じて利用できる。希望に応じては、一般の美容・理容室の利用もできる。日頃より、清潔・身だしなみに気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の食べたい物を献立に反映できるようにしている。また、食器拭き等を手伝って頂き、片付けに参加して頂いている。	食事は利用者の好みや希望にお応じ、ホームの職員が利症者と一緒にメニューを組むなど工夫されている。また食材の買い物なども利用者と一緒にいくなどし、食べることへの楽しみへの援助が提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様に応じた食事量・水分量を記録し、状態に合わせた食事形態にしている。食事制限のある利用者様もいるので、摂取量の管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアに加えて、定期的な歯科往診にて口腔内の清潔保持・治療・アドバイスを受けている。		

茨城県 グループホームいっしん館つくば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレ誘導や声掛けにて個々に合った排泄支援を行っている。	排泄の状況を利用者単位で把握し、個別記録に残し夜間の排泄が多い利用者には、定期的に言葉かけを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常より水分補給を促したり、食物繊維の多い食品や整腸作用のある食品を献立に取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴したい日・時間帯に入浴できるように配慮している。温度や入浴方法も個々の好みに沿って対応している。	入浴は、利用者の希望に応じながら、好きな時間に提供できるように、配慮されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具類・居室の温度調整をこまめに行い安眠できるように配慮している。天気の良い日には布団も干している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止の為、職員2名にて十分な確認を行っている。薬の内容を理解し服薬支援をしている。薬が変更になった場合には、その都度職員全員が周知できるように申し送りを徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者様の生活歴や得意なことに合わせた役割・手伝い等を行って頂き、毎日張り合いをもって生活できるよう支援している。また、定期的にレクリエーションを企画し気分転換できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月外出レクリエーションを行ったり、普段からも散歩やドライブに出かけたりと、外出支援を行っている。	外出は、入居者の希望やその時の天気などを考慮し、積極的に外出する機会を設け提供している。	



茨城県 グループホームいっしん館つくば

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談の上、金銭管理可能な方には、使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙は利用したい時に自由に利用して頂いている。ご家族様からの電話についてもいつでも取り次ぎされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的で清潔な空間作りに努めている。季節に合った飾りを取り入れ季節感を感じて頂いている。	共有空間は、落ち着いた色で整えられ、異臭等も感じられず快適な空間となっておる。また季節や時への配慮が細かく設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを置き、和室にはコタツやテーブルを置き、自由に使えるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や、生活用品を持ち込んでもらい、個々の居室作りをしている。また、ご本人様の趣味や生活歴にあった掲示物を飾ったりしている。	仏壇やタンスなど、利用者の家族の協力を持って入居者独自の其の人らしい空間が提供されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・お風呂をわかりやすく表示している。各居室前には、表札や利用者様の顔写真を掲示して混乱がないように配慮している。		

## 目標達成計画

作成日: 平成 22年 12月 8日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	大きな行事以外でも、月単位での行事や外出レクなどの内容が具体的にご家族様に伝わっていませんでした。	大きな行事以外でも、月単位での行事や外出レクも把握して頂き、安心して頂く。	お便りの書式の見直しを行いました。お便りの来月の予定の欄に、決定している外出や行事などの詳細を今まで以上に具体的に記載していきます。	6ヶ月
2	26	ご家族様やご利用者様の要望や意見が、今後のケアプランに反映できるようにする。	ご家族様やご利用者様の要望や意見を反映し、ケアプランの内容の充実を図る。	アセスメント作成時に、ご家族様やご利用者様に要望や意見の聞き取りを行い記載するとともに、ケアプランに反映させる。また、ケアプラン返送時に要望や意見を記入する場所があるので、そちらの要望や意見もケアプランに反映させる。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。